



第 24 号

(年 2 回発行)

発行所
喜多流大島能楽堂
 〒720-0814
 広島県福山市光南町2-2-2
 TEL 084-923-2633

- P2 幸宣佳先生に憧れて 飯田清一
- P4 英語能「パゴダ」のシテツレを勤め終えて エリザベス・ダウド
- P8 「パゴダ」プロジェクトに参加して北澤秀太
- P10 不思議な国へ行く喜び アラン・ウエスト

「パゴダ」アジアツアーの御礼

喜多流職分 大島 政 允

新作英語能「パゴダ」のアジアツアーの初日は、六月二十八日、東京千駄ヶ谷の国立能楽堂で開催されました。日本では東京、京都、その後中国に渡って北京、香港での連続五回公演の始まりです。通常は日本人能楽師ばかりの楽屋に十数人のアメリカ人出演者達が紋付姿で立ち働いているのは何とも不思議な光景でした。

「パゴダ」の上演前、私は「高砂」のシテを勤め終えて、後は楽屋裏から「パゴダ」拜見と相成りました。

二年前の「パゴダ」ヨーロッパツアーの時には、ほとんどが劇場での公演でした。今回は日本を代表する国立能楽堂での初演です。能舞台の構造は、橋掛かりがあり、三間四方の舞台が当たり前なのですが、劇場で演能する時と比較して、改めて能舞台の構造の素晴らしさに気づかされました。張り出している舞台がお客様と一体となるよう上手く出来ているのです。

全ての監修を任されています立場で、この国立能楽堂での英語能の評価は大変気になるところでした。作り物のパゴダ（仏塔）の高さが能舞台に

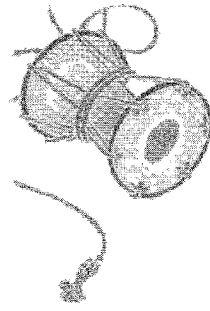
違和感を与えるのではないかと心配しましたが、それも全く全てが順調に進み、観客の皆様からも良い評価を頂くことが出来、安堵致しました。

このような大掛かりな企画はなかなか現実化することは難しいのですが、ジャネット・チョング女史とリチャード・エマート氏の情熱に引つ張られ、文化庁始め、ご支援頂きましたスポンサー様、多くの皆様のご協力で無事に今回のアジアツアーも終えることが出来ました事、この紙面をお借りして心より御礼を申し上げます。



「高砂」大島政允 (2011.6.28) 国立能楽堂 井上和博撮影

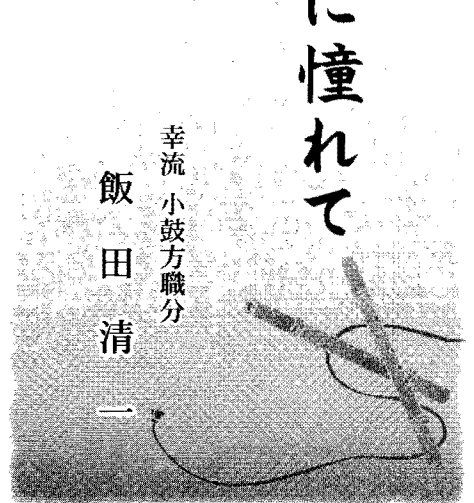
幸宣佳先生に憧れて



私の父、飯田富雄は私が生れた年の昭和三十五年から東京在住の宝生流シテ方の武田喜永師に師事しました。そのお陰で私は小学生になった頃から子方で能舞台に出演するようになりました。

四年生になった頃、父の妹が幸流の小鼓方幸正悟師と結婚しました。すると、間もなく私の小鼓の稽古が始まり、先代の幸宣佳師（人間国宝）に師事することとなりました。私は子方時代にはシテ方になるつもりだったのですが、幸宣佳先生に魅了され、小鼓方になる決心をしたのです。

幸宣佳先生のお稽古は、理屈なし、想いが中心の教えでした。例えば、〈班女〉の稽古の時に「お前は女を知っているか？」又は、「この曲は



幸流 小鼓方職分

飯田清一

嫁を持たないと解らない。」等とおっしゃって、曲中の深い想いを汲みとるよう指導して頂きました。



筆者 11才の頃



飯田清一氏

幸流小鼓方職分

1960年生まれ。

10歳で人間国宝の故・幸宣佳師に入門。

12歳、囃子（桜川）で初舞台。

〈石橋〉〈乱〉〈卒塔婆小町〉等大曲を次々と披き、28歳で〈道成寺〉を披き、独立。

毎年、アメリカ・欧州公演に参加、上海万博公演も勤めた。

新作、復曲も数多く手掛け、昨年は新曲能〈直江兼継〉の作調に参加。

久留米市芸術奨励賞受賞。

2000年に重要無形文化財総合指定保持者認定。

能楽協会会員。日本能楽会会員。

一の会会主。





故 幸 宣佳師
小鼓方幸流職分
人間国宝

九州には養成会がなかったので、お稽古のない時普段はのんびりと魚釣りに行ったり、畑仕事をしたりの毎日でした。その頃、若先生は体が弱く私が良く代役をさせて頂きました。「毎週、お披きだね!」と、周りの先生方から言われましたが、毎回の舞台が挑戦でした。ですから、学校の授業中は次の舞台の覚えもので頭の中がいつばいで、授業はうわの空でした。

そんな中、梅若景英(現・玄祥)先生に声をかけて頂き、東京での舞台のお仕事も頂くようになりました。梅若先生は「色々大変だろうけれど、兎に角この世界は上手くなることだよ!」と教えて頂きました。

私が十七才の時に幸宣佳先生が亡くなられて後は、舞台を勤めながらほぼ独学で勉強をしました。私のような能楽師はまずいと思いません。色々な先生に教えて頂いたことを全て飲み込み、自分の芸の糧として生きていかなければ

私の将来はないと思います。

先生が亡くなられて後、京都や東京へ行き、生きて行く道もあったと思いますが、家柄や肩書がない私にとって、九州で頑張って生きて行く方が自分らしいと思っています。

大島家ともご縁を頂いて、大島能楽堂定期公演、薪能などにお声をかけて頂き、昨年は輝久氏の(道成寺披き)のお相手もさせて頂きました。

二十一年前に一の会を主宰し、昨年十一月十日、大濠能楽堂で「二十周年記念 一の会」を開催しました。故大島久見師の従兄弟にあられる大島淳司氏が七十才の手習いで小鼓のお稽古を始められました。この二十周年記念の会でお父上様の形見の小鼓で見事に初舞台(玉葛)を勤められました。

今後も九州を拠点に微力ではありますが、能楽普及に努力いたす所存です。



能「千寿」シテ 大島衣恵 大鼓 亀井広忠 小鼓 飯田清一
(2011.4.17) 大島能楽堂 池上嘉治撮影

英語能「PAGODA」のシテツレ を勤め終えて

エリザベス・ダウド



舞のワークショップ 北京大学にて (2011.7.3) ★

エリザベス・ダウド氏
Elizabeth DOWD

シアター能楽創立メンバー
能トレーニングプロジェクト制作ディレクター
ブルームズバーグシアターアンサンブル俳優兼演出家

★印掲載写真 井上和博撮影

私は幸運にも日米友好基金クリエイティヴアーティスト交流フェローシップ(研究奨励金)を受け、一九九二年から一九九三年の半年間日本に滞在し、日本舞踊や舞踏、能楽の研究をしました。日本舞踊や舞踏の稽古も楽しみましたが、最も私の心を掴んだのは能楽でした。

リチャード・エマート氏率いる東京に本拠をおく能トレーニングプロジェクトや喜多流職分大村定師について稽古を重ね、研究を終えようと、ますます能楽と離れることが出来なくなりました。

米国に帰国し、私の活動拠点ブルームズバーグシアターアンサンブルのあるペンシルベニアの一地方都市を能楽トレーニングの中心地に出来ないかと考え、すぐにリチャード・エマートに連絡をとり、一九九五年の夏、三週間の夏期能楽集中講座、第一回能トレーニングプロジェクトを開催しました。

あれから十七年、大島能楽堂の能楽師の方々と共に能公演に参加するという夢のような現実を誰が予測できたでしょうか。二〇〇九年十二月、ロンドン、ダブリン、オックスフォード、パリのヨーロッパツアー公演。そして今年六月七月、東京、北京、香港のアジアツアー公演で、私は面装束を着けるシテツレの役で参加したのです。



英語能「バゴダ」稽古風景(2011.6.27)★

能の持つ力強く無駄のない所作と精神的な演技の複雑さに魅入られた多くの芸術家(俳優、演出家、舞踊家、音楽家)にとつて、能トレーニングプロジェクトは二十年近くも夏の伝統的行事になっています。

ペンシルベニアの一地方都市に能トレーニングの拠点を作る中で多くの困難がありました。密度の濃い内容のあるプログラムにしたいという目標を掲げ、松井彬師、釜三夫師、更に大島衣恵師を講師に迎えてプロジェクトは測り知れないほど進化しました。その結果、日本の伝統的能楽に取り組んできた西洋人芸術家による英語能楽公演集団を創るというリチャード・エマーの長年の夢は多くの困難を乗り越えて、二〇〇〇年に「シアター能楽」として発足しました。シアター能楽メンバーは日本に住み能の研究に専念する者、北米に住みブルームズバーク能プロジェクトに参加し技芸を磨く者、日本に短期滞在して技芸習得に励む者と色々な方法で能楽に携わっています。

二〇〇二年、シアター能楽は「ライエーツの「鷹の井」(リチャード・エマート作曲、演出)で、初めての北米ツアーを実施しました。その後すぐ、シアター能楽は英語能公演のための脚本制作ワークショップを開き、会員参加者のグレッグ・ジオバーニ作「パインバレル」の

ツアー公演を二〇〇六年に実施しました。

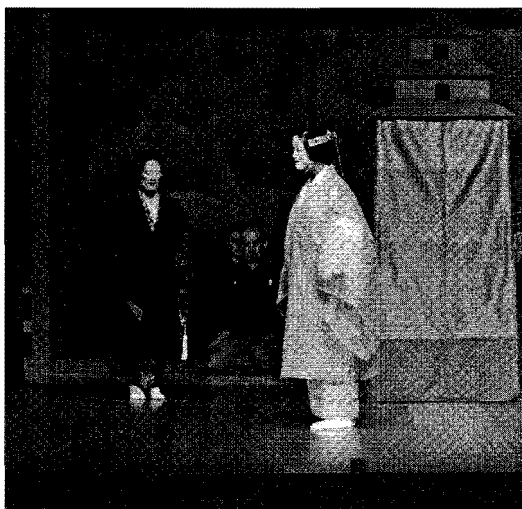
また、シアター能楽会員で宝生流シテ方のデービッド・クランドールは彼の著作「クレイジー・ジェーン」を英語能に改訂し、二〇〇七年ツアー公演も果たしました。

二〇〇八年春、英国人作家ジャネット・チョング女史が著作「バゴダ」を携えてブルームズバークにやって来ました。当初、ミュージカルの脚本であった「バゴダ」を何度も議論を重ねて、女史とエマートの共同作業で新作英語能として出来る上るには二年近くの歳月が費やされました。

二〇〇九年八月、ジャネットは新作英語能「バゴダ」を持ってブルームズバークにやってきました。それからシアター能楽会員は、十二月予定されていたヨーロッパツアーへ向けて稽古を行い、その後は各自、録音テープ、CDなどで自主稽古をしました。

そして、いよいよ十一月下旬、アメリカと日本から出演者とスタッフがロンドンに集合。ロンドン大学キャンパス、エリザベスクイーンホール、パーセルルームでリハーサルを重ねました。

私にとって世界初、新作英語能「バゴダ」公演の舞台に立つことは素晴らしい経験でしたが、又恐ろしいほどの緊張もしました。日本人能楽師の勤めるシテのツレを演じることは刺激的で



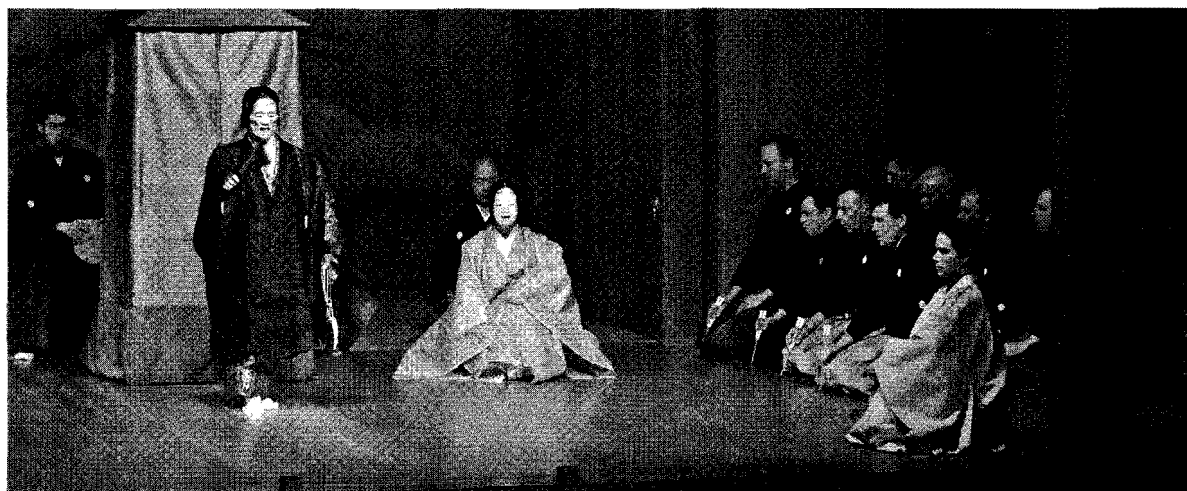
したが、同時に精神的負担を感じました。技芸の格差の大きいことに愕然とし、観客もそれに気づくに違いないと不安に思い始めたのです。装束の重さ、面を付けての限られた視界は私にとって新たな挑戦でした。面と装束を身につけ、構える。美しい装束が演能の柱礎を創る。前方に、自制したエネルギーを蓄え、面に生命が吹き込められる不思議な感覚なのです。私を感わせた挑戦はシテとの謡、連吟です。二人の音質をいかに同質化させることが出来るのか、ロンドン公演後タプリン公演前、衣恵師に再度稽古をお願いし、シテ謡との適正なバランスがとれるよう試み、シテとの謡が改善されました。ヨーロッパツアーを終えて素晴らしい

経験に深く感謝しましたが、まだまだ改善の余地があることを痛感していました。

二〇一一年六月二十八日、幸いにも私は再び「パゴダ」公演の機会を与えられました。国立能楽堂の舞台に立ち、「お幕」という声を聞き、静かに長い橋掛りを進んでいく……その感動をどう言葉で表せばいいのか適切な言葉が見つかりません。私はまさに日本で一番の能楽堂の舞台に立ち、日本人能楽師と英語で能を演じている！

全体りハーサル前、私は早くに面を付けて橋掛かりの運び、舞台の立ち位置の確認をしていました。驚いたことに、私の進む前方にリチャード・エマートの姿が視野に入ってきたのです。なんて、すばらしい！ 私は、私の能の最初の師に向かつて進んでいたのです。師の長年におたる指導、彼の能に対する深い愛情が私にこの瞬間をもたらせたのです。

英語能「パゴダ」公演にはたくさん思い出があります。中でも最も印象に残っているのが舞台裏での体験です。装束を着けてもらってから出番前の楽屋でのことです。大島家を中心とした能楽師達が何代にも渡り取り組んできた能の裏仕事を静かに見守りました。能は伝統的な芸術であると同時に彼らにとっては生活の糧であり職業です。能の決まりごとに精通し、必



英語能「パゴダ」シテ大島衣恵 ッレエリザベス・ダウド ヱキジュピリス・ムーア (2011.6.28) 国立能楽堂 ★

要最小限の言葉で一人一人が黙々と仕事をこなしていく姿は一種の美しさです。衣恵さんが「清経」のシテを演じる父親政允さんの側にある刀を取りに行く、一方で輝久さんが衣恵さん演じる後シテの装束を鏡の間まで補佐をするためにその場を離れる。他方で衣恵さんが鬘を付けており、その傍で母親の泰子さんが補佐する。それは何年もの間、家族がそれぞれの役目を果たしながら創ってきた家族による舞踏。それは観客のためのものではないのですが、異なる演劇形態の世界から来た私にとっては能舞台で見たきたものと同様に美しいものでした。

名実ともに実力ある能楽師の方々とともに舞台に立つことができたことは測り知れない喜びと誇りです。この経験は英語圏の人々に能の美しさを伝えるという私たちの使命への強力なエネルギー源となります。

英語能「パゴダ」公演ツアーにご協力を頂きました多くの皆様にシアター能楽会員を代表して深く感謝します。

原文・英語

(翻訳・寺田良二 文責・大島泰子)



「パゴダ」アジアツアー 出演者・スタッフ 北京にて(2011.7.2) ★

・二〇〇九年一月
ハワイ

「新作英語能で使う面を作ってみませんか。」
大学生に面打を指導する為に滞在していたハワイ
イ大学でリチャード・エマートさんから正式に
お話をいただきました。これまでも何度かシ
アター能業のお仕事をさせていただけに、
喜んでお受けしました。

・二〇〇九年四月
東京・目黒

原作者のジャネット・チョングさんを囲んで、
上演に向けて具体的なプロジェクトがスタート
しました。ジャネットさんはその情熱的な語り
口で、この新作能が彼女の家族の物語であるこ
とを説明してくれました。幼少期に止むに止ま
れぬ事情で家族と別れ、再会を果たせず亡くなっ



能面ワークショップ 北京にて (2011.7.3) 井上和博撮影

「パゴダ」プロジェクトに参加して

面打・神仏木彫師

北澤 秀太

きたざわ ひで た
北澤 秀太 氏

1968年東京生まれ
東京農工大学農学部林産学科卒
大学卒業後、神仏木彫師の父、北澤一京に入門。
父と共に、成田山新勝寺総門獅子彫刻・

佐原、川越祭り山車彫刻・深川富岡八幡御本社神輿彫刻等を手がける。
また古面、獅子頭、狛犬等文化財の修復、能の作り物、小道具の修復、新調も行う。
能面は伊藤通彦師(赤泥舎主催)に師事。

2010年『鬼界島』俊寛面制作、シテ大島政允師使用。
2011年『綾鼓』小面制作、ツレ大島輝久師使用。
日本木彫連盟江戸木彫刻、葛飾区伝統工芸職人协会会员。



能面ワークショップ 香港にて (2011.7.7)

た父君。その意志を継ぎ遠い父の故郷を訪ねたジャネットさん。この家族の絆と深い愛情を、能を用いて世界の人々に伝えたい、という彼女の熱い思いがひしひしと感じられました。

・二〇〇九年五月〜十一月

東京の工房・福山

パゴダの為に創作面を四面と作り物(仏塔)を作りしました。ジャネットさんとのメールのやり取り、大島家の方々のご意見をお聞きして少しずつイメージが固まって来ました。

面を作っていく過程で、大島家所蔵の素晴らしい面を拝見させていただいたり、シテ方としての面に対する様々な助言をいただきました。特に、あたりのよい面裏の彫り方・舞台で映えるような面のつや加減などの話は参考になりました。演者と面打が力を出し合っ てひとつの面を作り上げていくことが創作能の醍醐味であり、また今回はそれが十分にいかされた面が出来上がったと思います。

・二〇〇九年十一月〜十二月

ヨーロッパツアー

このプロジェクトはパゴダ公演とともに、能に関する日本文化を紹介する目的もあり、私もツアーに同行致しました。ピクトリアアルバート博物館・オックスフォード大学博物館・パリ日本文化センターなどで計八回、面打ちの実演をしました。日本から彫刻の道具を持参し、角材から荒彫りで大まかな形が出来るまでを解説を交えて行いました。対象は小学生から社会人まで様々でしたが、皆熱

心に見学してくれました。

・二〇一一年六月〜七月

アジアツアー

嬉しいことに今年、パゴダアジアツアーが実現しました。国立能楽堂・金剛能楽堂では私の家族、面打ちの師匠、先輩方皆様に見てもらったことが出来、喜んでもらいました。

その後、北京・香港でも上演され、私は北京大学・香港国際芸術祭などで面打ち実演を六回しました。学生や演劇関係者からの質問も多く、やりがいのある実演でした。

ツアーの最終地香港は、その歴史的背景により、パゴダ上演に最も適した都市でした。実際公演は大成功でした。最後の晩、香港の美しい夜景をメンバーの方々と堪能しながらこの企画に参加出来たことを誇りに思いました。

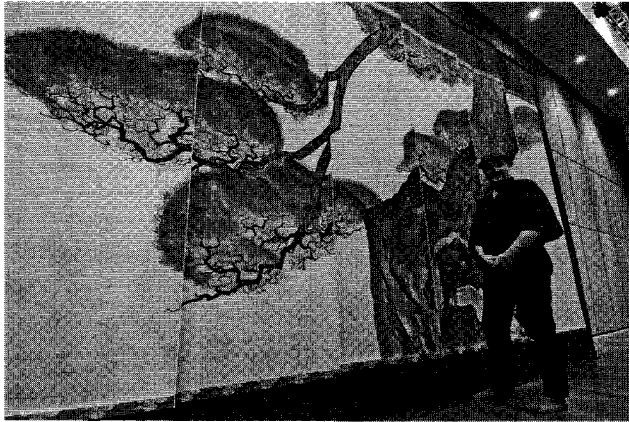
最後になりましたが、パゴダプロジェクトに関わられた皆様、このような機会を与えて下さり、ありがとうございました。次回を楽しみにしております。

不思議な国へ行く喜び



日本画家

アラン・ウエスト



自作の老松掛軸の前で 北京・国家大劇場 (2011.7.4) 井上和博撮影

本年七月、大島能楽堂とシアター能楽のアジアツアーに絵描きとして参加させていただきました。今回の海外能公演の舞台背景の松羽目を描いた日本画家のアラン・ウエストです。少し自己紹介をさせて下さい。

鉛筆の握れる小さな頃から絵を描くのが大好きでした。四歳の頃、裏庭で小さな草花を観察し、描いた時から植物は私にとって大きな題材でした。

中学生の頃初めて制作依頼を受けました。それは任んでいたワシントンDCの劇団からの注文で、大きな舞台の背景画でした。ある時は政治風刺のためにワシントンの風景の背景画を、またある時は西部開拓の話しのためにロッキーマウンテンを、ジャンヌダルクの演目では牢屋などの絵を背景画として描きました。

高校生の頃は自然美を表現する絵描きとして実験を重ねて、にか膠を顔料と混ぜました。新しい絵の具を発見したと勘違いしていた私は、日本画を知らずして日本画を描いていたわけです。その数年後、日本にはこの技法に永い歴史がある事を知り、正しく日本で勉強する必要性を感じ来日して勉強する事を決意しました。

一九八四年のある日、日本の美的感覚をより良く知るために桂離宮を見たくなり、京都へ赴きました。京都の桂離宮行きのバス停で待っている間、不思議な事を目撃しました。早めにバス停に着いたので、いろいろと周りを観察していました。間口の狭い家が並ぶ住宅街でした。バス停がちょうど目の前に位置している家に訪問者が来ました。ビジネスマンは「ごめんくだ

アラン・ウエスト氏

West, Jr. Stephen Allan

日本画家。

1962年、アメリカ合衆国ワシントンD.C.生まれ。

カーネギーメロン大学芸術学部卒。

東京藝術大学日本画科(加山又造研究室)修士課程卒。

カーネギーメロン大学芸術学部在学中に、ボランティア団体に活動。

日本に派遣されたことをきっかけに日本画の技法と出会い、画家として活動する。

スミソニアン美術館をはじめ、世界各地で個展を開く。

1999年、画廊兼アトリエ「繪処アランウエスト」(台東区谷中1-6-17)を構え、日本画・

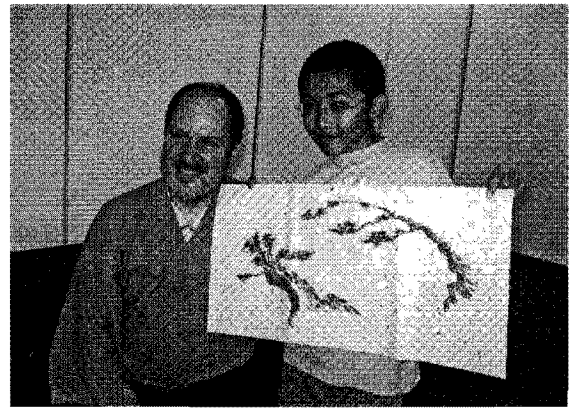
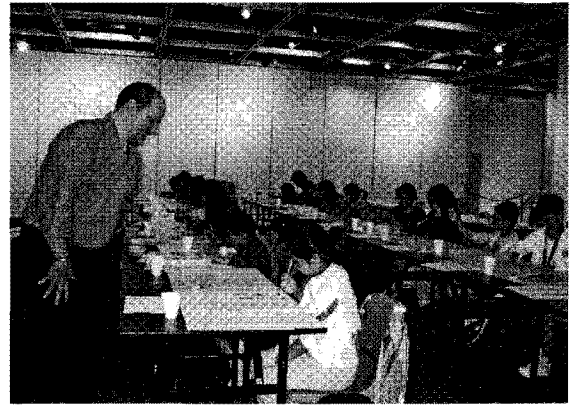
屏風絵・掛軸などを手がける。また、熱海に第二のアトリエを設け、創作を続けている。

近年、谷中・根津・千駄木といった下町の人気が高まる中で、美術の杜・上野とその隣接

の下町で行われる美術イベント「art-Link 上野-谷中」にも毎年出品し、特に下町を拠点とするアメリカ人日本画家としてマスコミに取り上げられることも多くなっている。

「さくい」と言って入りました。次は着物を着ている婦人でした。次から次へと訪問者が来て、その家に入って行きました。見れば見るほどお客様が増えて、そのうち歩道に列が出来ました。数百人入ったように見えました。この不思議な

光景は、サーカスの定番のマイクロカーに数十人のピエロが入る事さえ連想したほどです。あまりにもおかしく思つて、次に来た人に訳を聞いてみようと思いました。すると、不思議な国のアリスの誘つた白いウサギのような白髪の老婦人が角を曲がつて来ました。優しそうな方なので尋ねてみたら、これからここで日本の伝統的な演劇の会がありますが、チケットが一枚余っているから、一緒に見ないかと誘われました。なぜか桂離宮への魅力が薄れて、好奇心のあまり、この小さな家の中に入ってみることにしました。初めて会った知らない老婦人と一緒に狭い玄関から廊下に入っていくと、その廊下の先になんと能楽堂があり、そこで私は初めてお能を体験することになったのです。『羽衣』でした。一部余分に持つていた謡本を貸して下さい



水墨画老松ワークショップ 香港にて (2011.7.7)

受けるインスピレーションに対し、いつかお能にお返ししたいと思つた頃、金春流の友人である山井綱雄さんに声をかけられました。ホールや劇場で舞う時、能にふさわしい空間を作るための松羽目がない悩みを打ち明けられました。そのきっかけで松羽目と同じ大きさの老松の屏風を描くようになりました。その後、邦楽のコンサート、歌舞伎舞踊、文楽、神楽、オペラ等の背景画も頼まれるようになりました。不思議と、私のこの長く曲がりくねつた絵描きの道のりをたどっていくと、やがて自分の注文制作活動の原点である舞台背景画に戻るのです。

英語能「バゴダ」のヨーロッパ公演ツアー、そして今回のアジアツアーにお声を掛けていただいて、本当に嬉しかったです。

ロンドンの非常に権威ある舞台上で上演された

たおかげで、初めてだつたにもかかわらず、台詞についていくことができ、大いに楽しむことができました。

それ以降、私はずっと能楽の熱烈なファンです。お能のメッセーじは私の人生観と良く重なる所もあり、また観能の後は持つ筆が軽く感じられます。お能から

こと、また特に若い学生たちが観劇のために予習していた事や、その後の質問の内容の高さに感心しました。パリのエレガントな劇場を担当する施設長の言葉も記憶に残っています。「大島さん達が来ている事で大変困っています。チケット発売五分で完売しました。なぜもつとパフォーマンスを増やさないのかという苦情が後を絶たない。」と言う嬉しい悲鳴も聞きました。

もう一つ記憶に残っているのは香港の聴衆でした。彼らは舞台上に釘付けで、その静かさは日本人以上でした。一斉に人々が謡本をめくる音がそろつていたことも印象的でした。香港での演能は六十五年ぶりだと何度か言われました。どれほど心待ちにしていたのが伺えました。

私の大好きなお能が海外で紹介されることは非常に素晴らしい企画だと思います。混乱している今の世の中にお能のメッセーじは特に必要とされていると感じています。社会や自然に対する責任、いざ誤つてしまつたら、そのことに対し償う責任、激動の時代でどう平常心を保つかなど、かの時代以上に今の時代にこそ必要なメッセーじであると思つています。いくら頑張つても絵描きの私は画面という平面でしか、私の生きる觀念の内容を表す事しか出来ません。しかし、有難いことに、私の作品がお能の背景に使われると、よりメッセーじ性が高まり、作品が不思議と完成されたように感じるのです。

大島家とともにイギリス、アイルランド、フランス、中国を回りました。このお能の有意義なメッセーじを多くの人々に伝える業に携わることができた事を光榮に思つています。

演能ご案内

2011年

開催日	催し名	開演	会場	鑑賞料	演目
9月18日(日)	第226回 大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能「枕慈童」 大島衣恵 狂言「水掛替」 茂山正邦 能「熊坂」 大島輝久
10月10日(祝)	市民能楽のつどい	9:00	アステールプラザ能舞台	無料	仕舞・素謡
10月16日(日)	福山総合文化祭 秋の会	10:30	喜多流大島能楽堂	無料	仕舞・素謡
11月8日(火)	はじめての能楽大会	13:00	岡山後楽園能舞台	無料	能学習発表・鑑賞会
11月20日(日)	第227回 大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能「花筐」 大島政允 狂言「清水」 茂山千三郎 能「雷電」 松井彬
11月23日(祝)	広島大島会	11:00	妙慶院	無料	仕舞・素謡

2012年

開催日	催し名	開演	会場	鑑賞料	演目
1月3日(火)	新春能楽祭	12:00	沼名前神社能舞台	無料	奉納 仕舞・素謡
1月14日(土)	能楽は楽しい	14:00	アステールプラザ能舞台	未定	能学習発表・鑑賞会
1月15日(日)	喜多流新年初謡会	10:00	喜多流大島能楽堂	無料	仕舞・素謡
4月15日(日)	第228回 大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能「藤戸」 松井彬 能「楊貴妃」 大島衣恵
4月21日(土)	燦の会	13:00	東京喜多能楽堂	未定	能「二人静」 大島輝久
5月20日(日)	喜多流春の会	10:00	喜多流大島能楽堂	無料	能・舞囃子・仕舞・素謡
6月17日(日)	第229回 大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能「百万」 大島政允 能「葵上」 大島衣恵
6月24日(日)	喜多流職分自主公演	11:45	東京喜多能楽堂	一般券 6,000円	能「熊坂」 大島輝久
7月28日(土)	福山八幡宮新能	18:30	福山八幡宮	前売り 4,000円	能「鞍馬天狗」 大島輝久
9月16日(日)	第230回 大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能「土車」 金子匡一 能「羽衣」 大島輝久
9月23日(日)	喜多流職分自主公演	11:45	東京喜多能楽堂	一般券 6,000円	能「融」 大島政允
10月21日(日)	福山総合文化祭 秋の会	10:30	喜多流大島能楽堂	無料	仕舞・素謡
11月18日(日)	第231回 大島能楽堂定期公演	12:30	喜多流大島能楽堂	年間共通券 20,000円 一般券 6,000円 学生券 2,000円	能「遊行柳」 大島政允

編集デスクより

- ・能楽師の家に生まれた宿命でどの子も方を経験せざるを得ません。平素は東京の狭いマンション暮らしの5才の孫にとって、初めての子方の舞台は計り知れないプレッシャーがあったと思いますが、無事に勤め終えホッとしています。
- ・東日本大震災被害甚大の中で、英語能「バゴダ」アジアツアーを実施出来ました事、関係各位に深く感謝申し上げます。(大島泰子)



能「隅田川」 シテ 大島政允 子方 大島薫子 大島能楽堂
(2011.6.19) 池上嘉治撮影

喜多流大島能楽堂

〒720-0814 広島県福山市光南町2-2-2
TEL 084-923-2633
FAX 084-923-8730
<http://www.noh-oshima.com>